

最近の出来事から考える

1 ポジティブな思考と言葉がけ

大相撲初場所は番付最下位、西前頭 17 枚目の徳勝龍が優勝し話題となりました。千秋楽結びの一番は大関貴景勝戦で、勝てば優勝、負ければ優勝決定戦という状況で勝ちを納め、見事初優勝を成し遂げました。幕下最下位から 20 年ぶりの優勝だったり、奈良県出身力士では 98 年ぶりの優勝であったりしたことが話題となったことは確かですが、優勝したことに加え、優勝後のインタビューも話題になりました。「自分なんか優勝していいんでしょうか？」と切り出し、アナウンサーの「優勝を意識しなかったか？」という質問に対し、「優勝を意識することなく、…」と模範解答しかけたところで、「えー、ウソです。めっちゃ意識していました。」と答え、「途中優勝を意識していないと答えたのはウソなんですか？」という追加の質問には、「バリバリ、インタビューの練習をしていました」と答え会場の笑いをとりました。優勝していたときの自分の姿をイメージしていたのでしょうか。

またある雑誌に、プロゴルファーの渋谷日向子が全英オープンで優勝したときのことが書いてあり、この記事が、徳勝龍の優勝インタビューと重なりました。最終ホールで 5 m のロングパットを決めて優勝したのですが、渋谷プロはこのときに、どういうガッツポーズをするかを考えていたそうです。「自分は優勝する」という肯定的な心構えを持っていたと評価されています。

徳勝龍関、渋谷プロともに、「ここで負けたら優勝決定戦で…」とか、「これを外したらプレーオフになって…」というようなネガティブな思考ではなく、「自分は優勝する」というポジティブな思いで勝負したのがいい結果につながったのでしょうか。

『肯定的な自己評価を持っている生徒ほど大きく成績が伸びている』という研究結果もあるようで、「自分はできる」「自分には素質がある」というポジティブな信念がある人ほど、努力することを厭わずぐんぐん成長することが科学的にも証明されているといえます。自分には無理、駄目だと考えるのではなく、「できる」、「きつとうまくいく」と考えることが成長・成功への近道だということでしょうか。

先日の職員会議で教職員にこの様な話をしました。

本校の生徒たちが『肯定的な自己評価』ができるように育てていきましょう。ポジティブ思考の友人と付き合っていくと周りの人たちもポジティブな状態になるといわれています。本校の生徒が「この人と一緒にいたら元気が出る」とか「この人とだったらやる気が出るとか」、こんな影響を与えることができるような人望のある人になれるといいですね。

2 松風会総会

本校卒業生会は「松風会」と呼ばれています。2 月 1 日に行われた総会では、本校の石見神楽部が神楽を上演しました。後輩となる生徒が大勢の卒業生の前で堂々と華麗に躍り、太鼓や手拍子の軽快なリズムで会場は大変盛り上がりました。この神楽部は今年 8 月に開催される全国高等学校総合文化祭に出場することが決まっており、参加された皆さんから多くの励ましのお言葉と激励金をいただきました。ありがとうございました。

狭いステージでしたので、あそこで舞うという事はかなりの技能を要するものです。ご覧いただいた年配の方からは「うまい」「すばらしい」…と何度も感想や評価いただき。私もただ見ているだけでしたが、こちらも嬉しくなりました。郷土の文化や芸能をこうやって高校生が継承していく取り組みは、その地域に根ざす文化的遺産を生み出した精神を学び、地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身につけ、いずれはこの地域の発展・創造と社会の発展に貢献する能力や態度が備わっていくことになるのでしょうか。

